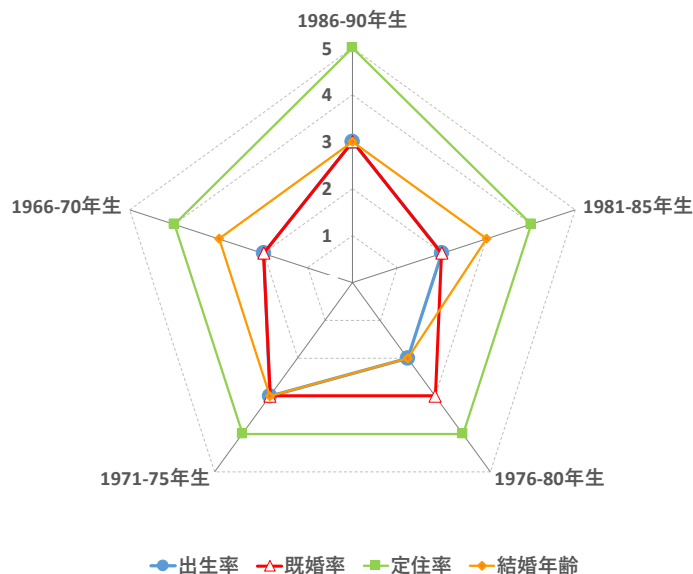


(5) 新発田市

①出生に関する総合評価

図5-1 コホート別総合評価



注：各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。

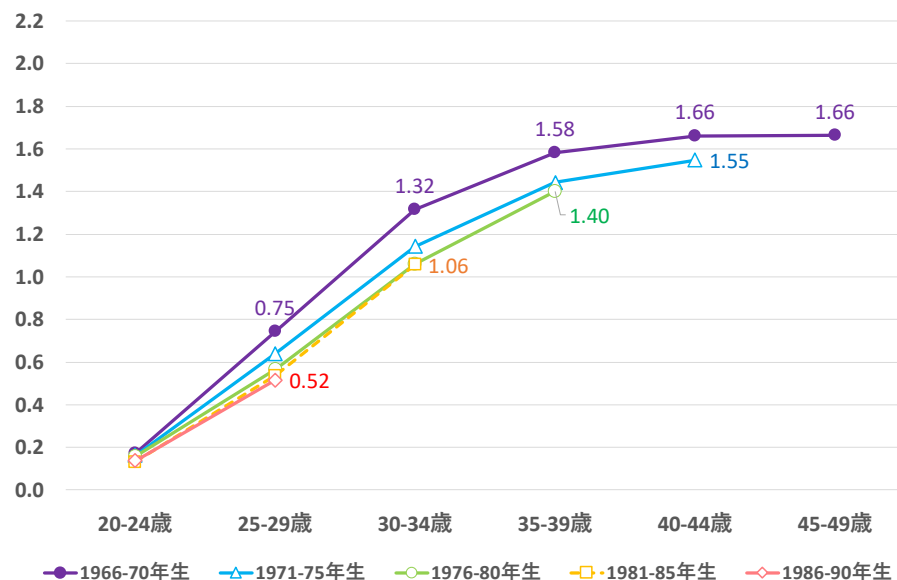
1. 合計出生率は、1966-70年生まれ、1976-80年生まれ、1981-85年生まれは下位であるが、1971-75年生まれ、1986-90年生まれは中位である。
2. 女性既婚率は、1966-70年生まれと1981-85年生まれは下位であるが、1971-75年生まれ、1976-80年生まれ、1986-90年生まれは中位である。
3. 女性定住率は、1966-70年生まれから1981-85年生まれまでは上位であるが、1986-90年生まれは最上位である。
4. 女性結婚年齢は、1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1981-85年生まれ及び1986-90年生まれは中位であるが、1976-80年生まれは下位である。

【総合評価】

1. 新発田市は定住率が全コホートで上位以上に属しているが、既婚率も結婚年齢も全コホートで中位以下である。合計出生率も全コホートで中位以下であるが、下位が多く低いグループに属する。
2. 子どもが産まれる確率が最も高い25-34歳の出生数は、1971-75年生まれから1人を下回っており、80年代後半生まれの25-29歳の出生数はさらに減少していることから、今後1人以上を回復できるかは30歳代でのキャッチアップがどの程度であるかに依存する。晩婚化・晩産化に合わせてターゲットを絞った効果の高い施策展開が求められる。

②コホート合計出生率

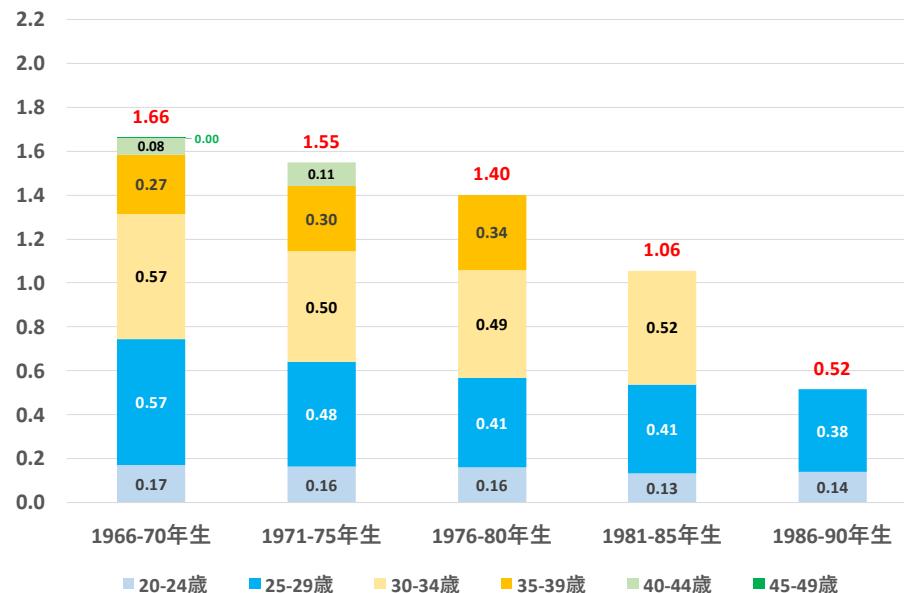
図 5-2 コホート合計出生率の推移



注：新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 5-2 は、新発田市のコホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 県内他市町村と同様に、25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に合計出生率の大幅な低下がみられる。
- ・ さらに 1971-75 年生まれ以降のコホートでも低下してコホート間の差が拡大している。特に、1980 年生まれ以降のコホートでは、それ以前のコホートよりも出生数が低下している。

図 5-3 コホート合計出生率の年齢区分別内訳

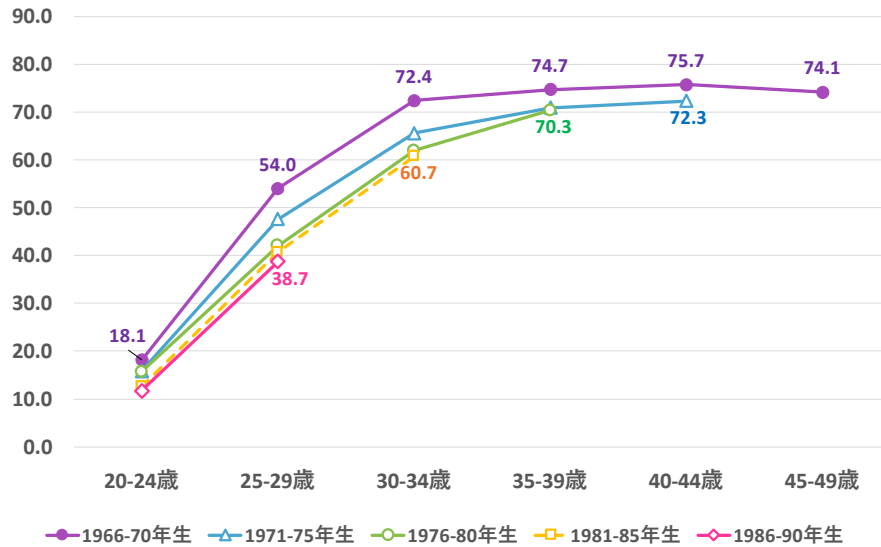


注：新潟県「福祉保健年報」より作成。四捨五入のため内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- ・ 図 5-3 は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20 歳代の出生数は、1966-70 年生まれコホートの 0.75 人に対して、1986-90 年生まれは 0.52 人に減少している。30 歳代では 1966-70 年生まれの 0.84 人に対して、1976-80 年生まれは 0.83 人にわずかに減少している。
- ・ 晩婚化のため 20 歳代の出生率が低下しているが、30 歳代でも 1 人が生まれていない状況が続いている。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い 25-34 歳の出生数は、1971-75 年生まれから 1 人を下回っており、1981-85 年生まれは 0.93 人に減少している。

③コホート別既婚率

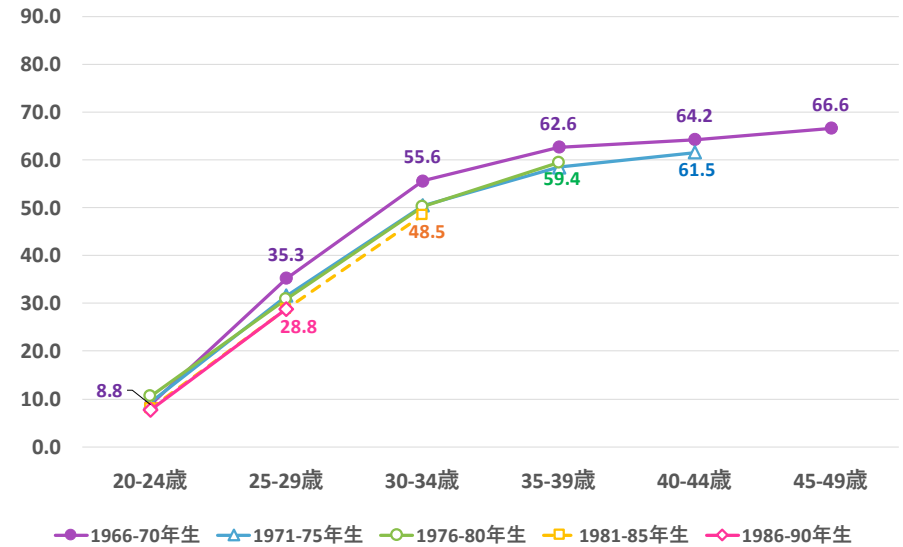
図 5-4 コホート別既婚率の推移(女性) 単位：%



注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 5-4 は、コホート別の到達年齢までの女性既婚率の推移を示している。
- ・ 25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に既婚率の大幅な低下がみられる。さらに、1971-75 年生まれとそれ以降のコホート間でも、25-29 歳と 30-34 歳時点の低下がみられる。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 54.0%から 1986-90 年生まれは 38.7%へと 15.3 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 74.7%から 1976-80 年生まれは 70.3%へと 4.4 ポイント低下している。

図 5-5 コホート別既婚率の推移(男性) 単位：%

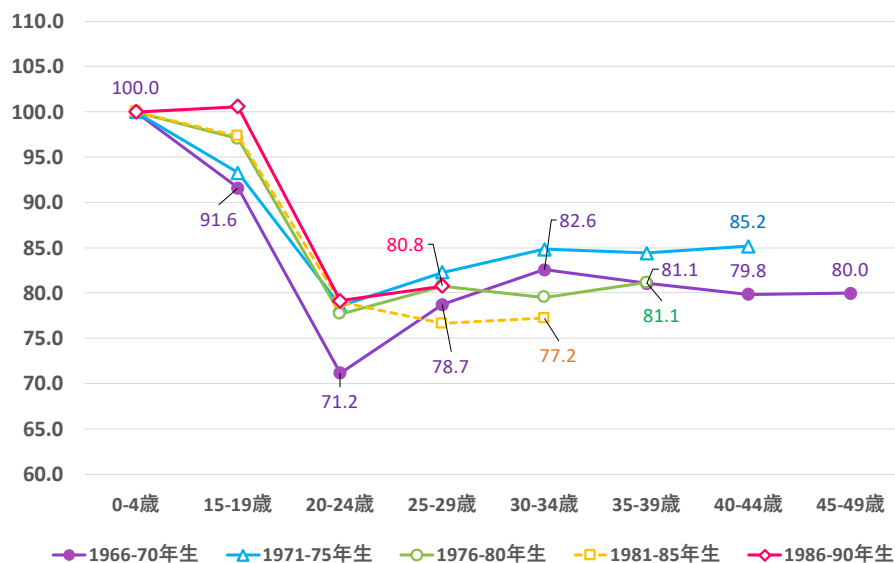


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 5-5 は、コホート別の到達年齢までの男性既婚率の推移を示している。
- ・ 男性既婚率も女性同様に最近のコホートほど低下する傾向が確認できるものの、1971-75 年生まれ以降のコホート間の差はごく小さい。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 35.3%から 1986-90 年生まれは 28.8%に 6.5 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 62.6%から 1976-80 年生まれは 59.4%と 3.2 ポイント低下している。
- ・ 女性既婚率は 40 歳代で 70%台前半に達するが、男性は 60%台半ばに止まり、男性既婚率のほうが低い傾向がある。

④コホート別定住(残存)率

図 5-6 コホート別女性定住率 単位：人口指数

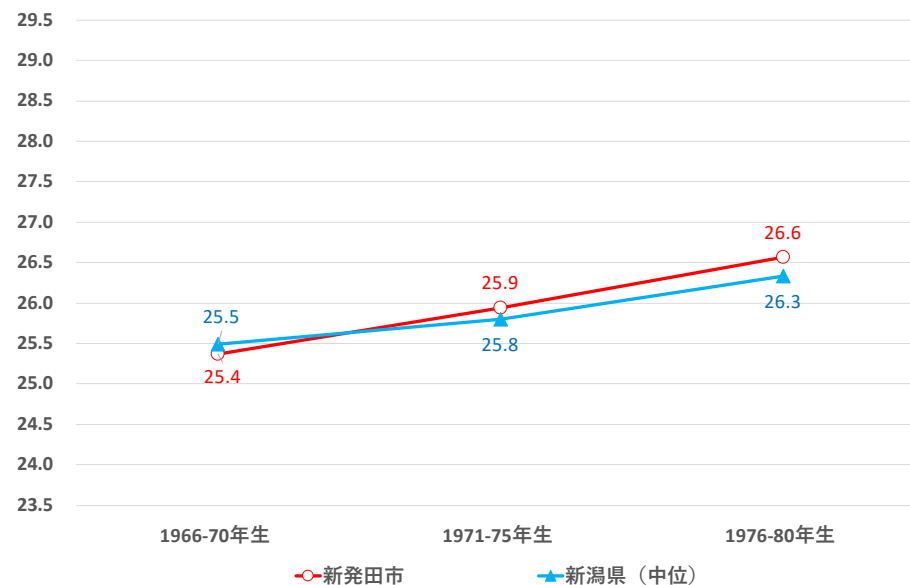


注：0-4歳人口=100。「国勢調査」より作成。

- ・ 図 5-6 はコホート別の到達年齢までの定住率の推移を示している。
- ・ 25-29歳における女性定住率は、1966-70年生まれの78.7から1986-90年生まれは80.8に2.1ポイント上昇しており、35-39歳における女性定住率は、1966-70年生まれと1976-80年生まれは共に81.1である。
- ・ 新発田市では、25-39歳時でみると、他市町村とは異なり、すべてのコホートが70%台後半から80%台半ばでの10ポイント弱のレンジで推移しており、定住率の低下は見られない。

⑤コホート別女性平均結婚年齢

図 5-7 女性平均結婚年齢 単位：歳

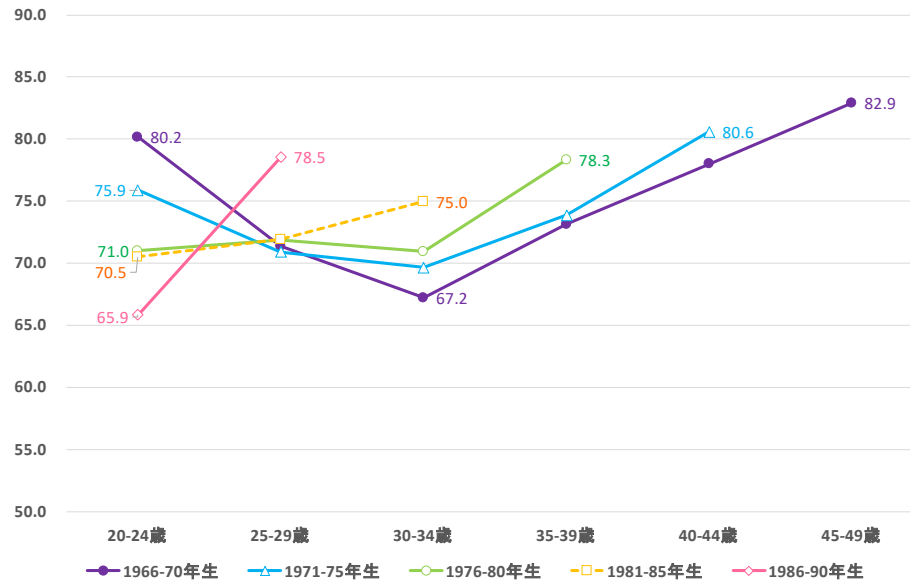


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 5-7 はコホート別の35-39歳までの女性平均結婚年齢を示している。
- ・ 1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1976-80年生まれの35-39歳までの女性平均結婚年齢は、それぞれ25.4歳、25.9歳、26.6歳である。1966-70年生まれと比べて、1976-80年生まれは1.2歳だけ平均結婚年齢が遅れている。
- ・ 1966-70年生まれの県内順位は12位と県内平均(中位)程度であったが、1971-75年生の県内順位は19位、1976-80年生は21位と県内平均(中位)よりやや遅い自治体となっている。

⑥コホート別女性就業率

図 5-8 コホート別女性就業率 単位：%

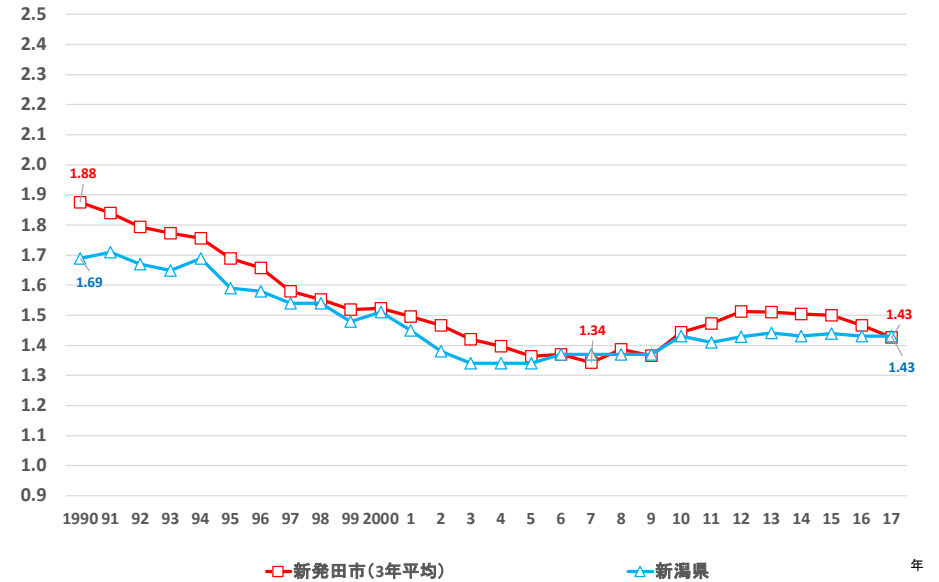


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 5-8 はコホート別の女性就業率の推移を示している。
- ・ 20-24 歳から 25-29 歳までの女性就業率の変化を見ると、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれのコホートは低下しているのに対し、それ以外のコホートでは上昇している。
- ・ 30-34 歳の女性就業率を見ると 1966-70 年生まれは 67.2%であったのに対して、1981-85 年生まれは 75%に上昇している。
- ・ 1970 年代生まれまでは M 字カーブが確認されたが、1981-85 年生まれコホートでは 30-34 歳時点で M 字の底が確認されない。

⑦期間合計特殊出生率

図 5-9 期間合計特殊出生率の推移



注：市町村の出生率は 3 年間の移動平均値である。新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 5-9 は、1990 年から 2017 年までの新潟県平均と新発田市(3 年平均)の期間合計特殊出生率の推移を示している。
- ・ 1990 年以降で見ると、新発田市の期間合計特殊出生率は 2007 年と 209 年を除き、新潟県平均よりわずかに高く、期間平均は 0.06 ポイント高い。
- ・ 新発田市の期間合計特殊出生率は、1990 年の 1.88 から低下してきたが、2007 年の 1.34 を底に 2012-13 年には 1.51 まで上昇したが、2017 年には 1.43 に低下している。